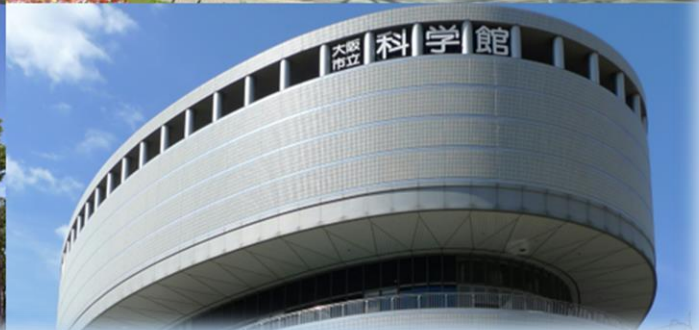




地方独立行政法人 大阪市博物館機構 年報
【2020 年度】



目 次

ごあいさつ	1
I. 組織	
I－（１）役員	2
I－（２）沿革	2
I－（３）組織図	2
I－（４）職員	2
II. 大阪市博物館機構のあらまし	3
III. 大阪市博物館機構の事業	
III－（１）各館の主な事業	4
III－（２）事務局の主な事業	5
IV. 各施設の活動	
大阪市立美術館	6
大阪市立自然史博物館	8
大阪市立東洋陶磁美術館	10
大阪市立科学館	12
大阪歴史博物館	14
大阪中之島美術館準備室	16
V. 資料	
決算報告書	16
VI. 大阪市博物館機構からのお知らせ	17

ごあいさつ

2019年4月に、大阪市の5つの博物館、美術館（大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館、及び大阪歴史博物館）は、地方独立行政法人 大阪市博物館機構として新たなスタートを切り、丸2年が過ぎました。

これまで、歴史・美術から自然・科学に至るまで多様な分野において、それぞれの専門性を活かしながら積み重ねてきた、展示や調査研究などの特色ある活動を基にしつつ、各館の連携による相乗効果を発揮すべく、機構として一体的に運営を行っていくための基盤整備に取り組んでまいりました。2019年度は、1年間で約270万人に上るお客様をお迎えし、当機構の5館合計の来場者数として、過去最高を記録することができました。

しかしながら2020年度は、世界的に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年2月末～6月初旬に亘り臨時休館を行うなど、お客様にご来場いただくことを制限せざるを得ない状況となりました。そのような中、国や大阪府等の指針に沿って、機構としてお客様を安心・安全にお迎えするための感染症対策を講じ、多くの皆さまのご協力をいただき、感染拡大状況や緊急事態宣言等の発出状況を踏まえながら、運営を再開・継続することができました。

また、コロナ禍による社会の変容を踏まえた、新たな価値向上に向けた取組みを Covid-19 Response Strategy (CRS)として取りまとめました。特にコロナ禍でもお客様に博物館・美術館の素晴らしさをお伝えできるよう、オンラインでの講座・講演会の実施、所蔵資料の公開、ニコニコ動画やYouTube等を活用した特別展等の紹介などに積極的に努めて参りました。引き続き、お客様に安心してご来場いただくための対策を継続しつつ、デジタル化による博物館の新しいコンテンツの発信や、新しい生活様式を見据えたマーケティング手法の検討などを進めてまいります。

コロナ禍の一日も早い終息を願うとともに、社会の変化に対応しながら、大阪市ミュージアムビジョンに掲げられた「都市のコアとしてのミュージアム」を実現していくことで、皆さまと共に「大阪を元気に」していきたいと考えております。

引き続き、皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

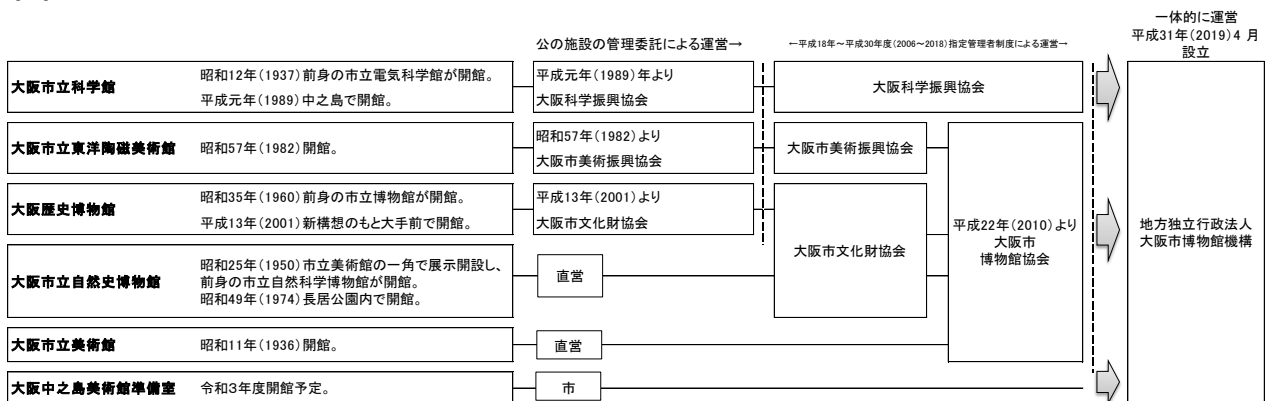
地方独立行政法人 大阪市博物館機構
理事長 真鍋精志

I. 組織

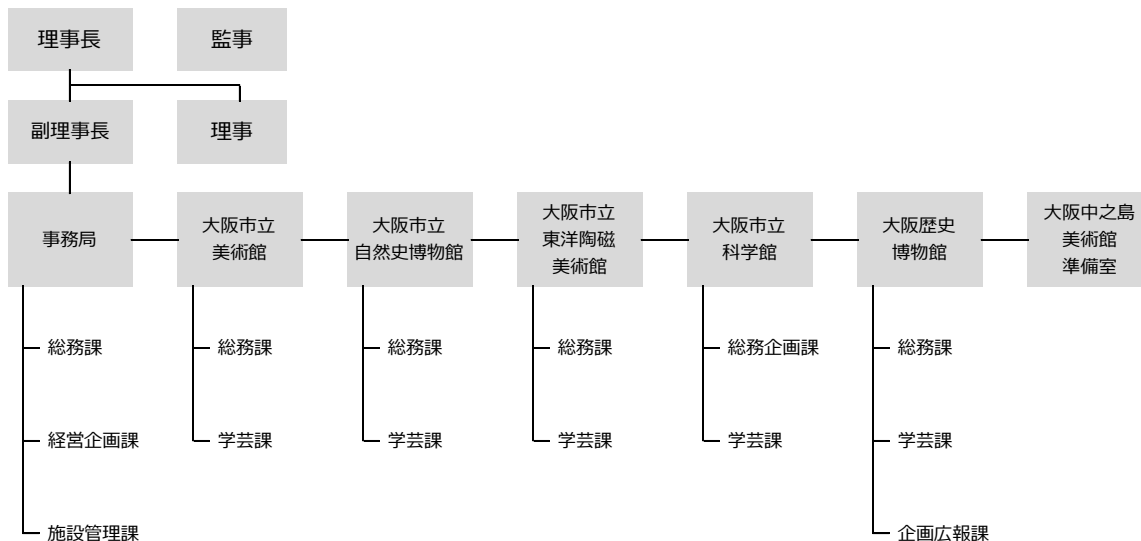
(1) 役員（令和2年4月1日現在）

理事長	真鍋 精志	理事	玉岡 かおる
副理事長	安積 孝夫	理事	布谷 知夫
理事	佐藤 友美子	監事	西尾 方宏

(2) 沿革



(3) 組織図



(4) 職員（令和2年4月1日現在）

	事務局	大阪市立美術館	大阪市立 自然史博物館	大阪市立 東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島 美術館準備室	計
事務職	21	11	7	6	12	12	2	71
学芸職	3	10	15	6	11	21	11	77
計	24	21	22	12	23	33	13	148

Ⅱ. 大阪市博物館機構のあらまし

【特徴】

地方自治体として初めて独立行政法人として博物館を運営し、美術、自然、陶磁器、科学、歴史、現代美術といった異なる分野の施設を一体管理しています。

【目的】

地方独立行政法人大阪市博物館機構は、博物館及び美術館を設置し、歴史、美術、自然、科学及び科学技術に関する資料等を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、当該資料等に関する調査研究及び普及活動を通じて、市民の文化と教養の向上を図るとともに、学術の発展に寄与することを目的としています。

（定款第1条から）

【業務の範囲】

当機構は、上記の目的を達成するため、次に掲げる業務を行っています。

1. 博物館等を設置すること
2. 歴史、美術、自然、科学及び科学技術に関する実物、標本、現象に関する資料、その他の資料（以下「博物館等資料」という。）を収集し、保管して公衆の観覧に供すること
3. 博物館等資料に関する情報及び資料を収集し、整理し、及び提供すること
4. 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究を行うこと
5. 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びに前号の調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと
6. 市民の生涯学習の機会を提供すること
7. 博物館等資料を貸し出し、及び交換すること
8. 他の博物館等、学校、学会その他の国内外の関係機関と連携し、及び協働すること
9. 第1号の博物館等の運営に関する調査研究及び評価等を行うこと
10. 前各号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと（定款第16条から）

【各館の使命】

大 阪 市 立 美 術 館

美術作品を通じ、新しい価値に触れ豊かな感性を育むさまざまな機会の提供を館の使命とし、日本・中国を中心に広く世界諸地域の文化財について、調査研究、管理、収集、保存、展示、教育普及等の事業を行っています。

大阪市立自然史博物館

大阪の自然の情報拠点として、市民の自然への興味関心を強め、あわせて大阪に蓄積された自然史科学関連の資料保全と活用に務めるため、調査研究、管理、収集、保存、展示、教育普及等の事業を行っています。

大阪市立東洋陶磁美術館

豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たし、大阪が誇る世界で最も洗練された陶磁専門美術館を目指し、東洋陶磁をはじめとしたコレクションを中心に、関連するその他美術、工芸について、調査研究、保存、管理、収集、展示、教育普及等の事業を行っています。

大 阪 市 立 科 学 館

科学を楽しむ文化の振興を図るため、主に物理学・化学・天文学・気象・科学技術に関する調査研究、資料の保存、管理、収集、展示、プラネタリウムの投影、教育普及等の事業を行っています。

大阪歴史博物館

館の使命である「歴史と対話し、現在、そして未来を考える」の実現を目指し、都市大阪の歴史及び文化やその他の関連する資料について、調査研究、保存、管理、収集、展示、教育普及等の事業を行っています。

大阪中之島美術館準備室

大阪中之島美術館の建設に関して、大阪市と連携して進めています。

Ⅲ. 大阪市博物館機構の事業

(1) 各館の主な事業

(ア) 博物館資料の収集・保管

購入・寄贈により資料を収集し、寄託による受け入れを行い、それらを適切に保管して将来へ継承します（博物館資料には、歴史・美術・自然・科学・科学技術に関する実物・標本・現象に関する資料などが含まれます）。

館蔵品数（令和3年3月31日時点）

（件）

大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館準備室	計
8,519	1,910,710	5,686	2,267	146,123	6,151	2,079,456

うち国宝・重要文化財数

（件）

	大阪市立美術館		大阪市立東洋陶磁美術館		大阪歴史博物館		大阪中之島美術館準備室	
	館蔵品	寄託品	館蔵品	寄託品	館蔵品	寄託品	館蔵品	寄託品
国宝	5	2	2	2	2	2	2	2
重文	14	114	13	1	671	55	1	1

※大阪歴史博物館・大阪中之島美術館準備室については点数

新収蔵品数（購入・寄託・寄贈含む）

（件）

大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館準備室	計
24	26,456	122	12	240	408	27,262

※大阪中之島美術館準備室については点数、大阪市立美術館・大阪歴史博物館は寄託を含まない

修理点数

（点）

大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館準備室	計
3	0	5	14	3	35	60

(イ) 博物館資料等に関する調査研究

博物館資料についての専門的な調査研究や、利用者調査をはじめとする博物館運営に関する調査・分析などを行います。

文部科学省科学研究補助金を受けて行った研究

大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	計
5	23	5	0	10	43

(ウ) 博物館資料の展示

常設展では、展示替を行いながら館蔵品・寄託品などを公開します。また、各館で年数回の特別展の開催や大阪市立科学館ではプラネタリウムの投影などを行います。

各館入場者数

	大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	計
常設展	33,554	102,488	32,221	87,405	45,511	301,179
特別展・プラネタリウム	98,858	8,261	32,221	110,410	18,412	268,162

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年2月29日から5月末頃まで全館において臨時休館により公開中止

各館の休館状況については、Ⅳ. 各施設の活動よりご参照ください。

(エ) 教育普及事業

講演会・展示解説・ワークショップ・観察会などの事業を通して、活動成果の公開と普及をはかります。

また、学校や教員と連携し、生徒・学生の利用を促します。ボランティア活動や NPO 法人との連携により、館活動への参画機会を提供します。各館の特徴に応じた様々な事業を行っています。

(オ) 事業の効果を高める業務

展覧会や教育普及事業において地域や関係団体、マスメディアなどと連携を取り、よりよい事業を構築します。戦略的な広報により、効果的な情報発信を行います。障がい者や外国人をはじめ、だれもが利用しやすい博物館運営を行います。また、館の機能強化やサービス向上のため施設改修に取り組みます。

(カ) 大阪中之島美術館の開館準備

近現代美術・デザインを中心とする大阪中之島美術館（令和3年度開館予定）の開館準備業務を行います。

(2) 事務局の主な事業

大阪市博物館機構に所属する各館が持つ力を最大限に発揮できるよう、博物館運営に関する調査研究、共同広報、連携事業などを実施して事業効果の増大をめざし、また事業の計画及び評価を行い、安定的な経営に資するために財務内容の改善を図るとともに、内部統制の確立に努めています。

総務課

大阪市博物館機構に所属する各館が持つ力を最大限に発揮できるよう、必要な体制整備や職員の育成や、内部統制などその他運営に関する事項について行っています。

- ・職員の職能別・階層別の研修の実施
- ・人事評価制度の検討

経営企画課

大阪市博物館機構に所属する各館の持つ魅力をみなさまにお届けするために、広報誌の作成や、講演会を実施しています。また、法人の適正な目標設定及び自己評価を行うために中期計画及び年度計画の策定及び評価に関する規程等を整備しています。

また、大阪市立大学と教育、研究、社会貢献の分野で知的・人的資源の交流や歴史・文化資源の活用など包括的連携事業を相互に協力して実施し、活力ある地域社会の創造、人材育成及び学術文化の向上発展に寄与する事業など教育普及事業にも取り組んでいます。

■ 広報

- ・美術館や博物館などが所蔵する作品や展示資料の解説カード「Osaka Museums Card」の作成
- ・広報誌の作成：ミュージアム情報冊子「Osaka Museums」の印刷・配布（4回発行）

英語版の各館総合ガイド「Exploring Osaka's Museums」の刊行



展示資料の解説カード
「Osaka Museums Card」



ミュージアム情報冊子
「Osaka Museums」

■ 教育普及

① 講座

- ・学芸員などによる長期連続講座「TALK & THINK」の開催（15回実施）
- ・出前講座の実施：「見どころたくさん大阪市の博物館・美術館」（2回実施）
- ・ミュージアム連続講座：「探訪 大阪城とその周辺」（3週連続）
- ・博学連携シンポジウム：「河内鋳物師の実像に迫る」

② 大阪市立大学への出講

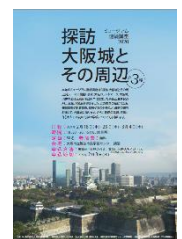
- ・博物館関連講義へ学芸員を派遣（通年実施：3講座）

③ 学校連携

- ・市内公立小・中学校へ「授業に役立つミュージアム活用ガイド」等の資料を配架し、学校向け利用促進を図った。



「TALK & THINK」の開催チラシ



「ミュージアム連続講座」
の開催案内チラシ

施設管理課

美術館・博物館の快適な利用環境の確保に向けた整備計画の立案を行っています。また、高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を念頭に施設の点検を実施しています。

IV 各施設の活動

大阪市立美術館

大阪市立美術館は、市民が優れた美術文化に接する機会を提供し、生活に潤いをもたらすとともに、美術家の活動を助成し、広く大阪の文化振興に資することを目的として、昭和 11 年（1936）5 月に開館しました。美術館は天王寺公園の中に位置していますが、その敷地は住友家の本邸があった所で、美術館の建設を目的に庭園（慶沢園）とともに大阪市内に寄贈されたものです。

美術館は設立当初の本館と、平成 4 年（1992）に美術館の正面地下に新設した地下展覧会室からなります。地上 3 階、地下 2 階からなり、本館陳列室では、特別展やコレクション展を開催しています。コレクション展では購入や寄贈によって集まった日本・中国の絵画・彫刻・工芸など 8,500 件をこえる館蔵品と、社寺などから寄託された作品を随時陳列しています。これらの作品には国宝や重要文化財に指定された作品も多く含まれています。また地下展覧会室では、常時様々な美術団体が主催する展覧会を開催しています。

本館地下には美術館に付設されている美術研究所があり、素描、絵画、彫塑の実技研究を行っています。

■ 展示・公開

● コレクション展

コレクション展では、購入や寄贈によって集まった日本・中国などの絵画・彫刻・工芸など 8,500 件を超える館蔵品と、社寺などから寄託された作品を展示しています。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5 月 25 日まで臨時休館により公開中止

期間	展示名称	入場者数
5 月 26 日～6 月 30 日	おおさかの仏教美術 3 鳥獣草木ー中国・朝鮮王朝の絵画 古代エジプト コプトの美術	4,651 人
7 月 1 日～8 月 16 日	ラブリー！ジャパン 愉快奇怪 神獣図鑑：中国古代篇 愉快奇怪 神獣図鑑：やきもの篇 琳派の草花図	9,906 人
9 月 1 日～10 月 11 日	中国の石像彫刻 大阪の仏像	5,602 人
9 月 5 日～10 月 11 日	没後 50 年 浪華の女性作家 島成園 青緑い刻（あおいとき）	
10 月 27 日～12 月 13 日	写経ー天平から鎌倉へ 秋色を愛でるー近代日本画を中心にー 高き空からー仏教美術ー	5,254 人
1 月 9 日～2 月 7 日	松樹千年、終に是朽ちぬー絵画の中の自然美 生誕 200 年 三輪田米山ー大阪中之島美術館山本發次郎コレクション 富士礼賛ー近世絵画を中心にー 辛丑年 牛を描く 江戸の南画 磁州窯の陶枕 あちこちの風光明媚	1,831 人
2 月 20 日～3 月 21 日	宮人たちへの鎮魂歌ー隋の石刻 花咲くやきもの REVIVAL！ ニッポンのかがやき 本朝金属工芸史 桃山へ、桃山から 中近世工芸の諸相	6,310 人

● 特別展

国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携するとともに、新聞社・テレビ局等と協働した特別展を開催しています。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5 月 25 日まで臨時休館により公開中止

期間	展示名称	入場者数
5 月 26 日～8 月 16 日	フランス絵画の精華	60,031 人
10 月 27 日～12 月 13 日	天平礼賛	8,556 人
2 月 20 日～3 月 21 日	改組 新 第 7 回 日展	30,271 人



フランス絵画の精華



天平礼賛



改組 新 第7回日展

■ 収集・保管・修理

絵画・書・彫刻・工芸・考古の諸分野において、購入・寄託・寄附によって、作品の収集に努めています。

年月を経て劣化した作品を将来にわたって保存し、継承していくために、展示室や収蔵庫の環境管理・データベース化・資料の状態を考慮しての修理などを行っています。

■ 教育普及

来館者に探求心を抱き、感受性や創造性を育んでいただくために、日本・中国を中心とする政界諸地域の文化財について理解を深めるための手助けを行っています。学校との連携やボランティア活動への支援を行うとともに、展覧会の講演会を行うことで、都市のコアとしてのミュージアムにふさわしい教育普及活動を実施しています。

● 学習機会の提供

講演会、トークイベント、ワークショップ

● こども向けワークショップ

小中学生の美術鑑賞授業でのレクチャー

● 大学との連携

キャンパスメンバーズ制度、インターンシップ生の受入、講座への出講

■ 調査研究

日本・中国を中心に広く世界諸地域の文化財について調査研究を行って、文化財の収集・保存・展示活動に反映しています。調査研究には科学研究費補助金や、文化活動の助成金も活用しています。令和2年度の研究テーマの一部を紹介します。

- 中国の王朝交替期における絵画動向をめぐって－宋代以後の遺民画家の作例を中心に－
- 大陸説話集の利用をめぐって－絵画作例を中心に－

沿革

大正9年(1920)	3月30日、市議会の決議により美術館設立が議決される
大正10年(1921)	12月、住友家が美術館建設を条件に茶臼山本邸寄付を大阪市に申し出る
昭和5年(1930)	鉄筋コンクリート工事が竣工するが、世界恐慌により工事中断
昭和9年(1934)	美術館工事再開、外装工事が竣工
昭和11年(1936)	5月1日、大阪市立美術館開館。落成記念展は「改組第一回帝国美術展」
昭和17年(1942)	阿部コレクション中国絵画の寄贈を受ける陸軍による接收を受ける
昭和18年(1943)	小西家旧蔵光琳資料の寄贈を受ける
昭和19年(1944)	住友家より関西邦画展出品作の寄贈を受ける
昭和20年(1945)	第二次世界大戦終戦連合国軍による接收を受け、事務所を移転する
昭和21年(1946)	寄寓先の旧精華国民学校内に美術研究所を開く
昭和22年(1947)	美術館接收解除される
昭和23年(1948)	美術館での展示活動を再開する
昭和26年(1951)	博物館法の制定により教育委員会に移管される
昭和52年(1977)	山口コレクション中国仏教彫刻・工芸の譲渡を受ける(昭和53年度まで)
昭和55年(1980)	田万コレクションの寄贈を受ける
昭和56年(1981)	ガザルコレクション漆工の譲渡を受ける(昭和59年度まで)
昭和62年(1987)	天王寺公園が有料化される南館の美術団体展覧会場の一部がアベノベルタに移転し、それに伴い本館南館の一部が常設展示会場となる
平成4年(1992)	美術館正面 地下に展覧会室を新設し、南館とアベノベルタの美術団体展 展覧会場を統合移転する。南館は常設展示会場となる
平成7年(1995)	小野コレクション 中国石仏の譲渡を受ける(平成14年度まで)
平成27年(2015)	登録有形文化財(建造物)に登録される

施設概要

規模・構造	地上3階、地下3階
延床面積	17,190㎡(本館12,306㎡、新館4,884㎡)
展示面積	6,485㎡
収蔵面積	760㎡(北・中・南の3室)
展示室構成	18室：本館1階、10室 本館2階、8室
地下展覧会室構成	4室：新館地下2階
収蔵庫構成	3室：本館地下2階 北収蔵庫 210㎡ 中収蔵庫 130㎡ 南収蔵庫 420㎡
活動用諸室	美術ホール 本館1階 特別室 本館2階
その他諸室	事務室・学芸室・図書室・書庫ほか 本館地下1階

大阪市立自然史博物館

大阪市立自然史博物館は人間をとりまく「自然」について、その成り立ちやしくみ、その変遷や歴史を、展示や普及活動、研究を通して広く知っていただく施設です。私たち一人一人が、自然界の構造や諸関係について、幅広い知識を持つことが大切な時代になってきました。自然の保全のためだけでなく、よりよい未来、そしてよりよい生活環境を実現するためにも、大切です。

自然史博物館では、こうしたテーマを「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生き物のくらし」と題した4つの常設展示室、そして特別陳列や特別展を通して展示すると共に、年間80～100回程度開催される様々な観察会や講演会などの行事などを通じて様々な角度から、わかりやすく伝えていきたいと思っています。

■ 展示・公開

● 常設展示

常設展示では、人間をとりまく「自然」について、その成り立ちやしくみ、変遷や歴史を「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生き物のくらし」のテーマで展示しています。また、テーマ展示・ミニ展示といった小規模な展示も随時行っております。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、6月1日まで臨時休館により公開中止

(令和2年度：テーマ展示・ミニ展示)

・「世界一変な火山展」(開催中止)

期間：4月11日～5月31日

・「大山桂貝類学文庫 ミニ展示」

期間：6月2日～8月30日 入場者数：43,295人

・「氷河時代展ポスターができるまで展」

期間：10月3日～11月8日 入場者数：21,607人

・「陸前高田市立博物館コレクションが遺す地域の自然と文化—自然史標本レスキューの現在地点—」

期間：10月16日～11月29日 入場者数：24,329人

・「ジュニア研究・標本ギャラリー」・「丑年展」

期間：12月12日～1月11日、3月13日～3月28日 入場者数：12,365人

● 特別展

国内外の自然史系博物館や新聞社・テレビ局などと連携して、特別展を開催しています。

(令和2年度：特別展)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、6月1日まで臨時休館により公開中止

・特別展「知るからはじめる外来生物」 期間：6月9日～8月30日 入場者数：8,261人



特別展「知るからはじめる外来生物」

■ 収集・保管・修理

大阪市立自然史博物館では、「自然史標本の今後の収蔵計画について 大阪市立自然史博物館資料収集方針」に基づき、社会共有の財産である自然史標本を適切に収集し、次世代へ継承するために受け入れ、保存管理を行っています。

(令和2年度：主な寄贈コレクション)

・旧みさき公園所蔵脊椎動物骨格標本など 約320点

■ 教育普及

活動成果の公開と普及のため、自然観察会など多様な野外行事・講演会などを行っております。

(56 回実施、計 3,079 人参加) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止などのため 81 回中止

- (1) 講座・講演会・シンポジウムなど
 - ・学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」の開催
 - ・外部の学術団体などと連携したシンポジウムの開催
- (2) 子供向けワークシートの作成・ワークショップの実施
 - ・常設展・特別展でのワークシートの作成
 - ・学校団体の遠足下見、説明会、相談対応
- (3) 学生への支援
 - ・博物館実習を通じての学生への支援
 - ・大学への講師派遣

■ 調査研究

大阪の周辺の自然についての調査や、自然のしくみ・おいたちについての基礎的な研究をしています。これらの研究は、科学研究費補助金や文化庁補助金を活用しています。

令和 2 年度の研究テーマを一部紹介いたします。

- ・送粉者シフトを介する生態的種分化はどのような環境で進行するか？
- ・栽培きのこ鱗翅類の同定手方の開発及び生活史・分布情報のデータベース構築
- ・野外生態調査の証拠標本の保管と博物館資料としての登録・収蔵システムの構築

沿革

昭和24年（1949）	自然科学博物館開設準備委員会設置
昭和25年（1950）	市立美術館二階廊下において展示開設
昭和27年（1952）	博物館法第10条により登録（第2号）
昭和32年（1957）	市立美術館より西区鞠2丁目（元鞠小学校校舎改造）に移転
昭和33年（1958）	開館
昭和42年（1967）	大阪市総合計画局“30年後の大阪の将来計画”により長居公園内に新館敷地確定
昭和48年（1973）	3月 自然史博物館建設工事竣工 4月 自然科学博物館開館
昭和49年（1974）	4月26日 自然史博物館開館式挙行 4月27日 開館
昭和61年（1986）	展示更新完成
平成13年（2001）	花と緑と自然の情報センター開館
平成18年（2006）	ナウマンホールリニューアル
平成19年-20年 （2007-2008）	第5展示室オープン （第一期オープンは平成19年3月24日、第二期は平成20年4月26日）

施設概要

規模・構造	地上 3 階、地下 1 階	
延床面積	7,066.01㎡	
展示面積	2,427.48㎡	
収蔵面積	1,971.50㎡	
展示室構成	ナウマンホール	550.35㎡
	第1展示室 身近な自然	360.55㎡
	第2展示室 地球と生命の歴史	486.64㎡
	第3展示室 生命の進化	403.10㎡
	第 4 展示室 自然のめぐみ	通廊展示
	第5展示室 生き物のくらし	360.55㎡
	2階ギャラリー	266.29㎡
収蔵庫構成	地下 1 階	
	準備室兼置場（ 1 ）	47.99㎡
	準備室置場（ 2 ）	68.34㎡
	冷蔵庫室	21.99㎡
	資料前処理室	20.14㎡
	一般収蔵庫	748.34㎡
	特別収蔵庫	688.22㎡
	液浸収蔵庫	323.48㎡
	前室（ 1 ）	36.80㎡
	前室（ 2 ）	16.20㎡
活動用諸室	講堂・集会室・研究室・実験室・実習室	
その他諸室	書庫・事務室・会議室（ 1 階）	

大阪市立東洋陶磁美術館

大阪の都心部に広がる緑と水の空間、中之島公園。大阪市立東洋陶磁美術館は、その緑に溶け込むように建っています。

この美術館は、世界的に有名な「安宅コレクション」を住友グループ 21 社から寄贈されたことを記念して大阪市が設立したもので、昭和 57 年（1982）11 月に開館しました。館蔵品は「安宅コレクション」の中国・韓国陶磁を中心に、「李秉昌(イ・ピョンチャン)コレクション」の韓国陶磁、濱田庄司作品などの寄贈や、日本陶磁の収集などにより、東洋陶磁のコレクションとして世界第一級の質と量を誇っています。このなかには、2 件の国宝と 13 件の重要文化財が含まれています。また、ペルシア陶器、鼻煙壺など関連分野のコレクションの寄贈によっても館蔵品の充実が進んでいます。展示では、代表的な作品約 300 件によって中国、韓国、日本の陶磁などを独自の構成と方法により系統的に紹介しています。年 1～2 回の企画展、特別展では専門的なテーマのもとに、学術的水準と芸術性の高さを保ちながら、魅力ある内容の展示をめざしています。

作品の魅力をこころゆくまで鑑賞していただけるよう、自然採光展示ケース、回転式展示台、免震展示台など展示設備にもさまざまな工夫をこらしています。当館は東洋陶磁を中心とした質の高いコレクションを通して、美的体験の場を提供し、豊かな感性の育成と教養の向上に貢献していきます。

■展示・公開

●コレクション展

コレクション展では、安宅コレクションの中国・韓国陶磁を中心に、李秉昌(イ・ピョンチャン)コレクションの韓国陶磁や、日本陶磁などの館蔵品を展示しています。特に、安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺、近現代陶芸などの中から代表的作品を中心にそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示しています。

また、変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約 20～30 点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する特集展示も開催しています。（令和 2 年度入場者数：32,221 人）

（令和 2 年度：特集展示）

・「現代の天目—伝統と創造」 6 月 2 日～11 月 8 日

・「柿右衛門—Yumezuras セレクション」 11 月 21 日～令和 3 年 7 月 25 日

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、6 月 1 日まで臨時休館により公開中止

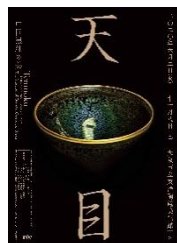
●特別展・企画展

国内外の美術館・博物館などと連携し、当館の特徴を活かした特別展や企画展を開催しています。

期間	展示名称	入場者数
6 月 2 日～11 月 8 日	天目—中国黒釉の美	24,524 人
11 月 21 日～2021 年 7 月 25 日	黒田泰蔵	7,697 人

※ 1 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、6 月 1 日まで臨時休館により公開中止

※ 2 「黒田泰蔵」の入場者数については令和 3 年 3 月 31 日時点



天目—中国黒釉の美



黒田泰蔵

■収集・保管・修理

豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たし、大阪が誇る世界で最も洗練された陶磁専門美術館を目指すため、芸術的あるいは資料的価値の高い作品の購入および寄贈の受け入れを継続的に行っております。また、作品の保存・継承と、展示などによる効果的な活用を高めるため、状態や活用予定などを勘案して優先順位を設け、館蔵品の修復を行っております。

（令和 2 年度：寄贈作品数 119 件 133 点 寄託作品数 3 件 3 点）

■教育普及

来館者に豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たすため、展覧会ごとに関連した講演会、講座などを開催しています。また、博物館学を開講する大学への見学実習の受入れや、館蔵資料の調査対応などを通じて研究者の活動を支援しています。

■調査研究

国内外の関連研究機関との学術交流、海外への作品貸出を行うとともに調査研究活動を一層充実させ、世界における東洋陶磁の研究拠点としての役割を担っています。また、研究成果を展示や展覧会図録に反映させています。これらの研究には科学研究費補助金なども活用しています。令和2年度の研究テーマを一部紹介いたします。

- ・中国宋代天目茶碗の総合的調査研究—新出土資料と科学分析を踏まえた伝世品の再検討
- ・東アジア的視点から見た高麗青磁の総合的研究—産地、編年、流通、需要の諸様相
- ・近代日本における中国陶磁研究への新たな視座—小森忍の活動を通して

沿革

昭和55年（1980）	住友グループ21社から安宅コレクション寄贈の申し出を受ける 大阪市は中之島公園内に専門美術館を建設することを発表
昭和57年（1982）	11月6日 大阪市立東洋陶磁美術館開館式
昭和58年（1983）	「昭和57年照明普及賞」を受賞
昭和59年（1984）	「建築業協会賞」を受賞
平成8年（1996）	第1次李秉昌コレクション韓国陶磁121件の寄贈
平成10年（1998）	第2次李秉昌コレクション韓国陶磁100件の寄贈 第3次李秉昌コレクション韓国・中国陶磁130件の寄贈
平成11年（1999）	新館開館式典 「韓国陶磁研究奨学生」の募集開始(以後2007年まで毎年度募集)
平成12年（2000）	李秉昌記念陶磁資料室公開 第1次堀尾幹雄コレクション濱田庄司作品ほか204件の寄贈
平成13年（2001）	第2次堀尾幹雄コレクション濱田庄司作品ほか38件の寄贈 第3次堀尾幹雄コレクション中国陶磁ほか23件の寄贈
平成17年（2005）	第4次堀尾幹雄コレクション濱田庄司作品ほか11件の寄贈
平成20年（2008）	沖正一郎コレクション鼻煙壺1139件の寄贈 沖正一郎鼻煙壺展示コーナー新設・公開
平成30年（2018）	第1次松恵コレクション日本陶磁ほか240件の寄贈
平成31年（2019）	第2次松恵コレクション日本陶磁ほか147件の寄贈 辻井コレクション灯火具84件の寄贈

施設概要

規模・構造	地上3階、地下1階	
延床面積	3,921.80㎡	
展示面積	1032.0㎡	
収蔵面積	121.8㎡	
展示室構成	A 韓国陶磁室□	126.0㎡
	B 韓国陶磁室	70.0㎡
	C 韓国陶磁室□	92.3㎡
	D 李秉昌コレクション韓国陶磁室	193.5㎡
	E 日本陶磁室	102.6㎡
	F 特集展示室□	61.2㎡
	G 中国陶磁室	100.0㎡
	H 中国陶磁室（自然採光室）	47.0㎡
	I 中国陶磁室□	110.0㎡
	J 企画展示室□	110.2㎡
	K 沖正一郎コレクション鼻煙壺室	19.2㎡
収蔵庫構成	1階収蔵庫	121.8㎡
活動用諸室	研究室・図書室	
その他諸室	事務室・学芸室・会議室	

大阪市立科学館

大阪市立科学館ではプラネタリウム、展示場、サイエンスショーなど「本物、実物、生の現象」で多くの方々に科学をお楽しみいただいています。設立時を上回る勢いですが、さらに、当館での体験が家庭、学校、職場などを通して社会全体に広く伝播し、科学を楽しむ文化が振興することを目指しています。そして、この文化が科学技術発展の礎になることを願っています。「本物、実物、生の現象」による強い感動があれば実現できるはずと職員一同が切磋琢磨しています。

大阪市立科学館の「本物、実物、生の現象」を具にした科学料理を、どうぞ味わってください。

■展示・公開

●常設展示

常設展示では、「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、1階から4階の各フロアで物理学・化学・天文学・科学史・気象・科学技術に関する資料を模型・装置・実物などにより展示し、またサイエンスショーなどの演示を行っています。

(令和2年度実績)

- ・常設展示：入場者数 87,405 人
- ・サイエンスショー：演示回数 354 回 見学者数 6,480 人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、7月20日まで臨時休館により公開中止

●プラネタリウム

大阪市立科学館では、新しいプログラムを3か月に1本制作・投影しています。幅広い年齢層の方々に楽しんでいただけるよう、一般投影以外にも、ファミリータイム・学習投影など多種多様なプログラムを提供しております。

(令和2年度 プラネタリウム入場者数：110,410 人)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月20日まで臨時休館により公開中止

演示名称	内容
一般投影 A	「今夜の星空」の解説に加え、下記のテーマ解説を行っています。学芸スタッフ等による生解説が基本となっています。 ・投影回数 653回 ・観覧者数 40,174人 ・タイトル 銀河うずうず、太陽系のメダリスト、火星ふたたび接近中、冬の天の川、天王星発見240年
一般投影 B	全天周デジタル映像作品をメインに、学芸スタッフ等による生解説を加えて投影するスタイルで行っています。 いずれも当館オリジナル作品となっています。 ・投影回数 534回 ・観覧者数 35,731人 ・内容 HAYABUSA2 ～REBORN（新作）、宇宙ヒストリア～138億年、原子の旅～、眠れなくなる宇宙のはなし、ブラックホールを見た日 人類100年の挑戦（新作）
学芸員スペシャル	学芸員の専門・得意分野を生かした投影となっています。 ・投影回数 100回 ・観覧者数 7,681人
学習投影	平日の学校団体専用の学習用プログラムの投影を行っています。 ・見学校 131校 ・投影回数 108回 ・観覧者数 8,735人
ファミリータイム	幼児から小学校低学年までの子供連れの家族（園団体を含む）向けの投影を行っています。 ・投影回数 305回 ・観覧者数 18,089人
スペシャルナイト	天文学の普及と市民の生涯学習を目的に、学芸員の専門・得意分野を活かした特別投影を行っています。 ・物理学者・南部陽一郎と宇宙 1月23日 参加費：無料 142人参加（オンライン講演会として実施） ※はやぶさ、はやぶさ2から未来へ（2月6日）、アインシュタインが愛した音楽と宇宙（2月14日）は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い開催を中止。

■収集・保管

物理・化学・天文・科学史・気象・科学技術を中心とした新規資料を収集し、科学分野における「現象」そのものを展示化するための装置開発・調査研究を行っています。また、大学などとの連携を通じて観測器類・実験装置などの収集も行っています。

(令和2年度実績：資料寄贈 12 件 借用 5 件)

■教育普及

「本物、実物、生の現象」による体験、そして感動をより多くの方に届けるために様々な教育普及活動に力を入れています。

- (1) 講座・講演会・シンポジウムの開催
 - ・学芸員による実験教室や研修・講座
 - ・外部組織との連携子供向けワークシートの作成・ワークショップの実施
 - ・展示場ワークシート・学校団体専用のプラネタリウムの作成
 - ・「ジュニア科学クラブ」の実施
- (2) 学生への支援
 - ・天文学を学べる大学との連携

■調査研究

当館の運営テーマである「宇宙とエネルギーを中心にそれらに関連する様々な科学知識・技術の普及、啓発、研究」を行っており、その研究成果を科学に関する資料の収集・保管・展示に反映させています。

沿革

昭和61年(1986)	関西電力（株）から大阪市制100周年に賛同し、関西の電気事業創業100年を記念して「科学技術館（仮称）」を建築して寄贈する旨申し出
平成元年(1989)	5月31日（大阪市立電気科学館 閉館） 10月7日 開館
平成2年(1990)	のべ 100万人来館
平成5年(1993)	第1次展示改装（第1期）オープン 12月25日 のべ 300万人来館
平成6年(1994)	第1次展示改装（第2期）オープン 第1次展示改装（第3期）オープン
平成9年(1997)	のべ 500万人来館
平成11年(1999)	第2次展示改装オープン
平成16年(2004)	プラネタリウム機器リニューアル
平成18年(2006)	のべ 1000万人来館
平成20年(2008)	第3次展示改装オープン
平成21年(2009)	オリジナル全天周映像「HAYABUSA-BACK TO THE EARTH-」完成・上映開始 開館20周年記念式典
平成23年(2011)	プラネタリウムホールプロジェクトリニューアル
平成25年(2013)	入館者1500万人達成
平成31年(2019)	光学プラネタリウム更新、展示場一部改装し、リニューアルオープン

施設概要

規模・構造	地上 4 階塔屋、地下 1 階建て	
延床面積	9,356.45㎡	
展示面積	3,156.3㎡	
収蔵面積	95.7㎡	
展示室構成	プラネタリウムホール	480.0㎡
	1 階展示場	344.0㎡
	2 階展示場	421.9㎡
	3 階展示場	996.0㎡
	4 階展示場	1394.4㎡
	天体観測室	25.8㎡
活動用諸室	研修室・工作室・多目的室	
その他諸室	事務管理室・会議室	

大阪歴史博物館

大阪歴史博物館は、大阪に住む人たちはじめとし、すべての人たちに対して、この地で培われた歴史遺産・文化遺産に基づき、これまでの蓄積を踏まえながら、より広い観点に立って充実した活動を行っていきます。それを通して、ともに都市大阪の歴史に対する理解を深め、「歴史との対話」を常に大切にしながら、現在の社会・文化を考え、よりよい未来の創造をめざしていきます。

■展示・公開

●常設展示

常設展示では、古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などで展示しています。また、時宜やテーマに即した「特集展示」を開催しています。

(令和2年度実績)

・常設展示：入場者数 45,511人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月31日まで臨時休館により公開中止

(特集展示一覧)

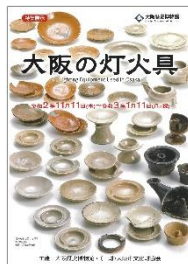
- ・2020年3月4日～5月11日〈開催中止〉 発掘成果から考える 近世都市「おおさか」の食文化
- ・5月13日～7月20日〈開催中止〉 発掘された難波京
- ・7月22日～8月24日〈開催中止〉 河内源氏 1000年 壺井八幡宮の社宝
- ・8月26日～11月9日 新発見！なにわの考古学 2020
- ・11月11日～1月11日 大阪の灯火具
- ・1月13日～3月22日 蒐集家・高島唯峰—明治期考古学の遺産—
- ・3月24日～5月17日 大阪市の指定文化財—平成28年度から令和2年度まで—

(特別公開)

- ・7月22日～8月24日 重要文化財 久米田寺文書



新発見！なにわの考古学 2020



大阪の灯火具



蒐集家・高島唯峰
—明治期考古学の遺産—



大阪の指定文化財
—平成28年度から令和2年度まで—

●特別展・特別企画展

国内外の博物館やコレクター、大学、新聞社・テレビ局などと連携し、自主企画や巡回展により、特別展・特別企画展を開催しています。

(特別展・特別企画展一覧)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月31日まで臨時休館により公開中止

期間	展覧会名	入場者数
2020年2月26日～4月5日 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月29日から臨時休館により公開中止	猿描き狙仙三兄弟 鶏の若沖、カエルの奉時も	473人 (令和元年度実績)
4月25日～6月14日	NHK大河ドラマ特別展「麒麟がくる」	開催中止
7月18日～9月14日	妖怪(あやかし) —怪異をめぐる世界展—	開催中止
10月31日～12月14日	埋忠(UMETADA) 桃山刀剣界の雄	18,412人
1月27日～3月1日	大阪の近代化と町—水帳から公文書へ—	5,477人



埋忠〈UMETADA〉
桃山刀剣界の雄



大阪の近代化と町
—水帳から公文書へ—

■ 収集・保管

郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民のみなさまに紹介し、理解を深めることを方針とし、この趣旨に沿って歴史・考古・美術・民俗・芸能・建築の諸分野において、購入および寄贈の受け入れを継続的に行っています。
(寄贈 1,405 点)

■ 教育普及

「都市おおさか」の歴史と文化を市民のみなさまに紹介するため、様々な事業を行っています。

(1) 講座・講演会・シンポジウムの開催

- ・なにわ歴博講座
- ・展覧会と関連した講演会・展示解説・シンポジウムの開催
- ・なにわ歴博寄席の開催

(2) 学校との連携

- ・学芸員資格の取得を目指す実習生の受入れ
- ・職場訪問の受入、出前授業の実施

(3) 学生への支援

- ・学芸員資格の取得を目指す実習生の受入れ
- ・大学への出講

■ 調査研究

当館の使命である「歴史と対話し、現在、そして未来を考える」を実現するため、都市大阪の歴史及び文化やその他の関連する資料について調査研究を実施しています。また、これらの研究には科学研究費助成事業等も活用しています。令和 2 年度の研究テーマの一部を紹介いたします。

- ・有文当て具痕跡から窺える律令国家成立前後の地方の主体性対朝鮮半島交流の研究
- ・京金工・大月光興の研究－「文人金工」像の確立のために

沿革

大阪市立博物館（前身）

昭和 4 ～ 6 年 (1929 - 1931)	大阪城天守閣とともに、第四師団司令部建設のため市民の募金、6年に竣工。後に中部軍司令部、終戦後は駐留軍施設として利用
昭和23年 (1948)	旧第四師団司令部を大阪市営本部として返還
昭和33年 (1958)	府警から市へ建物返還。市制70周年記念事業として旧第四師団司令部の歴史博物館への転用構想まとまる
昭和35年 (1960)	5月 博物館創設事務室設置。館藏品ゼロからのスタート 12月 第1期工事完了、1 階開館。第 1 回特別展「桃山文化展」開催
昭和37年 (1962)	第2期工事完了、全館開館。記念特別展「大阪の名宝」開催
昭和51年 (1976)	文部省の科学研究費を申請できる学術研究機関の指定を受ける
平成元年 (1989)	有料入館者320万人突破
平成12年 (2000)	最後の展覧会「開館40周年記念特別展 博物館ものがたり—市民と歩んだ40年・そして未来へ—」開催
平成13年 (2001)	閉館

大阪歴史博物館

昭和60年(1985)	大阪市が「難波宮跡と大阪城公園の連続一体化構想」を発表
昭和62年(1987)	4月 NHKと大阪市が大阪放送会館の旧大阪市中央体育館北側敷地への移転合意。 7月 発掘調査開始（平成2年まで）し、5世紀代と前期難波宮にかかる倉庫群を発見
平成3年(1991)	遺構群を保存する方針を決定し、大阪市考古資料センター（仮称）の設置を決定
平成6年(1994)	旧大阪市立中央体育館跡地での考古資料センターと新博物館の建設を発表
平成9年(1997)	「（仮称）NHK大阪放送会館および大阪市立新博物館・考古資料センター」の建設工事が着工
平成13年(2001)	4月 大阪歴史博物館条例公布、建物竣工 11月3日 大阪歴史博物館開館

施設概要

規模	地上13階・地下3階建て	
延床面積	23,606.54㎡（専有部） 18,989.08㎡（共有部）	
展示面積	4,118.04㎡（常設展示） 892.64㎡（特別展示）	
収蔵面積	2,188.11㎡	
展示室構成	10階 難波宮の時代	1,219.37㎡
	9階 大坂本願寺の時代 天下の台所の時代	1,161.34㎡
	8階 特集展示 歴史を掘る、など	196.99㎡ 486.24㎡
	7階 大阪の時代	1,054.10㎡
	6階 特別展示室	892.64㎡
	地下1階 保存遺構見学室	1,890.00㎡
	第 1 収蔵庫	456.52㎡
	第 2 収蔵庫	70.70㎡
	写真保管庫	61.77㎡
収蔵庫構成	第 3 収蔵庫	109.91㎡
	第 4 収蔵庫	160.85㎡
	第 5 収蔵庫	71.35㎡
	第 6 収蔵庫	543.90㎡
	第 7 収蔵庫	109.88㎡
	第 8 収蔵庫	603.23㎡
	写真保管庫	
	燻蒸庫	
その他収蔵・保存設備	書庫	
	X線透過撮影装置ほか	
活動用諸室	研究室・講堂・学習情報センター『なにわ歴史塾』	
その他諸室	研修室・会議室、事務室	

大阪中之島美術館準備室

大阪の中心部中之島に、令和 3 年度の開館を予定している新しい美術館です。大阪ゆかりの作家も含め、日本や世界の近代・現代美術および近代デザインの作品をすでに約 5,700 点収蔵しています。

■ 開館に向けて

大阪市北区中之島に新たに設置する大阪中之島美術館について、令和 3 年度中の開館をめざして整備に取り組んでいます。

新美術館については、平成 26 年（2014）9 月策定の「新美術館整備方針」において、民間の知恵を最大限活用しながら、顧客目線を重視し利用者サービスに優れたミュージアムというコンセプトを掲げるとともに、平成 28 年（2016）11 月に策定した「大阪都市魅力創造戦略 2020」において、大阪全体の都市魅力の発展・進化・発信のための重点取組に位置付けるなど、これまでにない新たな魅力を持った施設をめざしています。新美術館の運営は、作品の収集、保存、研究、展示、教育普及、関連行事開催、大学・企業・地域等との連携、貸室、カフェ・レストラン等の運営など多岐にわたります。本事業は、これら新美術館の特徴を踏まえ、PFI 方式により、民間事業者が各業務を取りまとめ、効率的な美術館の維持管理・運営を行うものです。

■ 開館準備業務の実施

（1）美術及びデザインに関する作品資料及び情報の収集

購入：16 件（35 点） 寄贈等：19 件（318 点） 寄託：5 件（55 点）

（2）作品保護と開館後の展示の必要性を考慮しての修復と額装

修復：油彩画 18 点、家具等デザイン作品 9 点、日本画 8 点

額縁：製作 30 点、修繕 19 点

保存処置：貴重資料 157 点

（3）選定されたデザイナーと共同でのヴィジュアル・アイデンティティ（VI）の構築

ロゴタイプ、シンボルマークなどをはじめとした基本 VI エLEMENTS の運用開始

（4）プレオープンイベントの実施

「コレクションへのラブレターを大募集」市民参加型プロジェクト（10 月 12 日～3 月 31 日）

「ホームビデオ大募集：思い出がアートになる」市民参加型プロジェクト（10 月 12 日～3 月 31 日）

「中之島 dialogue for 2022」（2 月 27 日）



中之島 dialogue for 2022

V 資料

■ 決算報告書（平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

区分	予算額	決算額	差額 （決算－予算）	備考
収入				
運営交付金収入	2,025	2,344	319	
施設整備費補助金収入	599	485	▲ 114	
自己収入	736	327	▲ 409	
事業収入	718	298	▲ 420	
その他収入	18	29	11	
寄付金収入	11	2	▲ 9	
補助金等収入	0	7	7	
前年度繰越金	191	0	▲ 191	
計	3,562	3,165	▲ 397	
支出				
業務費	1,966	1,644	▲ 332	
展覧会経費	427	317	▲ 110	
その他業務経費	172	151	▲ 21	
人件費	1,199	1,165	▲ 34	
機構戦略費	168	11	▲ 157	
施設整備費	644	544	▲ 100	
一般管理費	952	970	18	
計	3,562	3,158	▲ 404	

VI 大阪市博物館機構からのお知らせ

寄 附

ご寄附のお願い

大阪市博物館機構では、大阪市立美術館・大阪市立自然史博物館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立科学館・大阪歴史博物館・大阪中之島美術館（令和 4 年 2 月 2 日開館予定）を運営し、歴史・美術から自然・科学に至るまで多様な分野において、それぞれの専門性を活かしながら、展示や調査研究など、博物館活動の充実に努めております。

市民の皆さまをはじめ、より多くのお客様にお越しいただける魅力あるミュージアムづくりのために皆さまのご支援をお願いいたします。大阪市博物館機構へのご寄付は、特定公益増進法人に対する寄附金として税制上の優遇措置の対象となります。

▶ 所得税の優遇措置

「寄附金額」または「総所得金額等の 40% 相当額」のいずれか低い金額から 2,000 円を除いた額が所得額から控除されます。

▶ 個人市民税の優遇措置

・大阪市に在住の方の寄附金税額控除

市民税の基本控除額（寄附金額 ※注 1－2,000 円）× 8 %

※注 1 寄附金額は総所得金額等の 30% が上限となります。

▶ 個人府民税の優遇措置

・大阪市・堺市に在住の方の寄附金税額控除

府民税の基本控除額（寄附金額 ※注 2－2,000 円）× 2 %

・大阪府（大阪市・堺市を除く）に在住の方の寄附金税額控除

府民税の基本控除額（寄附金額 ※注 2－2,000 円）× 4 %

※注 2 寄附金額は総所得金額等の 30% が上限となります。

▶ 法人税

寄附金額と損金算入限度額のいずれか少ない金額が損金に算入されます。

詳しくは、国税庁ホームページの・タックスアンサーNo.5283 特定公益増進法人に対する寄附金をご確認ください。

キャンパスメンバーズ

5 つの博物館・美術館を管理運営する大阪市博物館機構と、大阪城天守閣を管理運営する大阪城パークマネジメント株式会社、大阪市立住まいのミュージアム 大阪くらしの今昔館を管理運営する大阪市住宅供給公社・アクティオ共同事業体は、7 つの施設での大学生等による利用促進を図るため、「キャンパスメンバーズ」制度を設けています。

本制度は、大学・短期大学・専修学校・各種学校・高等学校を単位とし、学生・生徒等のみなさまに、博物館施設の常設展を無料で行ける等のサービスを提供するもので、活力ある地域社会の創造及び学術文化の向上発展に向けた人材育成に貢献します。



Osaka Metro 谷町線・中央線「谷町四丁目駅」2号・9号出口
大阪シティバス 「馬場町」バス停前

地方独立行政法人 大阪市博物館機構年報

【2020 年度】

令和 4 年 4 月

編集・発行：地方独立行政法人 ©大阪市博物館機構 2022

〒540-0008 大阪市中央区大手前 4 - 1 - 32 大阪歴史博物館内

電話：06-6940-4330 <https://ocm.osaka>